

# スポーツビジョン評価からみた野球のポジション特性

内田 優人 (競技スポーツ学科 トレーニング・健康コース)

指導教員 禰屋 光男

キーワード：守備成績、捕球率、動体視力、瞬間視

## 1. 緒言

人間は、外から受ける情報や刺激を、感覚器を介して受容し、知覚・認知している。スポーツ競技においては、高い視覚認知能力が必要条件と考えられ必要な視覚機能をスポーツビジョン (以下 SV) と呼び、SV 能力を上げることが競技能力向上に繋がるとされている。これまで、SV 能力と野球との関係性では打撃について多く記されており、打撃成績がよい選手ほど SV の値が高いと報告されている。しかしながら守備成績 (特に捕球時) に関しては明らかにされていない。そこで、本研究では野球での守備 (特に捕球時) に着目し、動体視力・瞬間視との関係性を数値的に明らかにすることを目的とした。

## 2. 方法

被験者は大学生軟式野球部 24 名、平均年齢 20 (±2) 歳とした。内訳として、投手群 6 名を A 群、内野手群 10 名を B 群、外野手群 8 名を C 群とした。

測定方法は ViViT ソフト (アローズジム社製) を用いて、動体視力と瞬間視を測定した。守備成績の捕球率は被験者の公式試合、練習試合を含めた直近の 28 試合の成績をスコアブックから算出した。

## 3. 結果

図 1, 2 より、守備力と動体視力、瞬間視の比較では相関関係を示すことはできなかった。

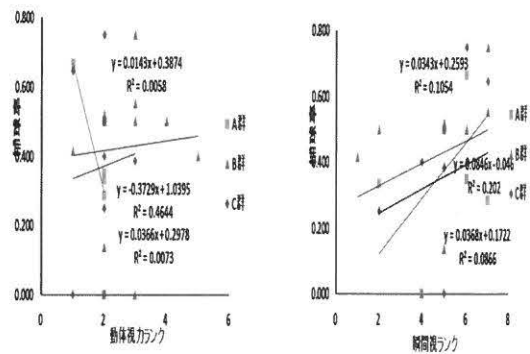


図 1 動体視力と捕球率

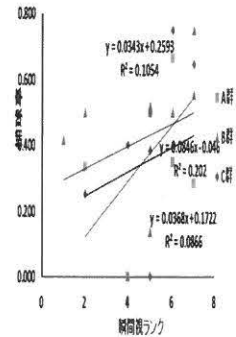


図 2 瞬間視と捕球率

## 4. 考察

本研究の結果から、守備力と SV 能力とは直接関係が認められなかった。これは、捕球数のバラつきが目立ったのとエラーをしていない選手などが多く十分なデータを得ることができなかったのが大きな要因だと考えられる。

## 5. まとめ

本研究では SV 評価による野球のポジション特性について調べた。

被験者の大学軟式野球部を対象に、試合での捕球率と現在の動体視力、瞬間視について比較し相関関係に値するかを調査した結果、全ての群に対して有意な差はみられなかった。これは調査期間の短さが影響していると思われる。

引用・参考文献

星野光信ほか (2001) 大学野球選手のスポーツビジョンに関する研究：ポジション別の特徴 日本体育学会大会号 (52), 557